

竹田恵子に

めをとうし

高橋悠治 (2005)

(小熊秀雄「或る夫婦牛の話」による)

[舞台上にピアノ、その前に高座。]

[ピアニスト板付。歌手「たいこうた」を歌いつつ登場。]

トン テレ トン テケトン テレレレ テレン
レン レン レレレレ ツンツン ツクツク ツク テン レン
レレレレ テン トン トロトロ トロトロ トロ ロロロロ
ポウポウ イヤポウ イヤポウ ポポウ イヨー テトン

[と、高座にひらりと上がり、扇子をかまえて、]

[婆さん牛]
爺さんや、 わしはいまたいへん

Pno.

glissando

— むなさわぎがして ならないよ。

Pno.

[語り]

急にお前さんと、引き離されてしまふやうな、気がしてならないな。

[爺さん牛]

glissando

ああ—— 婆さんや、 わしもむねが

Pno.

どきん どきんするよ。 きつとあしたは なにかわるいできごと

Pno.

が ある にちがひないな

Pno.

【語り】

爺さん牛と、婆さん牛とは、小さな牛小舎の中に、こんなことを、しゃべりあつて
ゐました、はては気の弱い婆さん牛は、声をあげて泣きだしました。

Piano accompaniment for the first scene, featuring a vocal line with lyrics and piano accompaniment. The lyrics are: ア アン ア アン ア アン ア アン モンモンモオモオモオオオ—

【語り】

爺さん牛も、婆さん牛が、泣くので、つい悲しくなつて、
大きな声でいつしよに、泣きました。

Piano accompaniment for the second scene, featuring a vocal line with lyrics and piano accompaniment. The lyrics are: ア アン ア アン ア アン ア アン モンモンモオモオモオオオ—

Piano accompaniment for the third scene, featuring a vocal line with lyrics and piano accompaniment. The lyrics are: お前は何が悲しくて泣くんだい。 婆さんや、

Piano accompaniment for the fourth scene, featuring a vocal line with lyrics and piano accompaniment. The lyrics are: わしもわからないが、かなしくなるんだよ。 爺さんよ、

glissando *gliss.*

ア アン アン ア アン アン モンモンモオモオモオオ—

Pno.

[飼主]

こん 畜生—奴、 何を やかましく、

Pno.

[語り]

小舎の戸があいて、飼主が手に蠟燭をもって入ってきました、
そろって泣きやがるんだい、

Pno.

gliss. [傍白]

おれらはあした のし ことも あるんだから、 しづかにしてねろ よ。 おまへたちは、

Pno.

[語り]
可哀さうだが、夜があけると屠殺場におくつてしまふのだ。

御主人さま、屠殺場といふのはなにをするところでございます。

Pno.

[語り]

そこは、お前達を、やっつけてしまふ場所だよ。

やっけるといふことはどんなことでございます。

Pno.

[語り]

やっけるといふのは、お前達を殺してしまふことだよ。

ころすといふことはどんなことでございます。

Pno.

[語り]

さうだ殺すといふことは、死んでしまふことだな。

死ぬといふことはどうなることでございます。

Pno.

[語り]

どうもわからないな、実はな、わしもよく、その死ぬといふことがわからないが、まだいつべんも死んで見た事がないんでな。

まあ、たとへば おまへたちを、その屠殺場といふ、まちはづれのくろい

たてもののなかに ひっぱりこんで、 ひたいを かなづちで ばかりと

なくりつけるのだ、すると ひたいからは、血 _____ といふ

あか いものが な がれ だ し て

[牛] (頓狂な声で)

旦那さま、すると旦那 _____ さまが、まいあさ わしたちを牧場に追ひだすときの

[詞主]

よ—う に、むちで しりっぺたをなぐりつけて、 あんな、なまぬるい もんぢやないよ、

Pno.

ちからまかせに 精一杯にな、なぐりつけるんだ

Pno.

[語り]

お前たちが、大きな地響きして、
ひっくり返ってしまふほどに殴るのさ。

あ、わかった、死ぬといふのは、そのひっくり返る事だな。

ああ、違ひない、そのひっくり返ることだよ。

詞主は、かう言って逃げるやうにしてどんどん行ってしまひました。

[婆さん牛]

爺さん、わしは 妙に、 そのひっくり返ることが、 いやに

Pno.

な—った どんない合に ひっくり返るんだらう 婆さんわからんな、 これまでも、

Pno.

[語り]

わしは石につまづいて、なんべんも転んだことがあるんだが、こんどのは、
あんなもんぢやないんだよきつと、すばらしく大きな音がするんだよ。

爺さんと婆さんは、そこで牛小舎に、大きな音をたてて、かはるがはる、ひっくり返つて見ましたが、
死ぬといふことが、わからないうちに、だんだん東の方が白んでまゐりました。

[ここで夜明けの音楽]

Pno.

Pno.

[語り]

翌朝、早くから二頭の夫婦牛は、小舎から引き出されて、飼主に曳いてゆかれました。

旦那さま、 わたちは、 その 死ぬといふことがいや—— になりました

Pno.

[語り]

夫婦牛は、足をふんばつて、屠殺場へ行く途中、さんざん駄々をこねて、飼主をたいへん困らせましたが、飼主はいつもより、太い鞭を、ちやんと用意して来てゐて、ぴしぴし続けさまに、尻を打ちましたので、牛は泣く泣く屠殺場へ行かなければなりませんでした。

Pno.

Pno.

か-ん。とおほきな ひびきがして、 そのひびきが

Pno.

あきの そら いっばいに、 ひろがった とおもうと、

Pno.

ひたいを かなづちで なくら れた 婆さん牛は

Pno.

お日さま のひかり——をまぶしさうに、二三 度 あたま を 左右——に

Pno.

振ったとおもふと、 おほきなじひびきをして、地面に倒れました。

glissando

Pno.

[語り]

倒れた婆さん牛は、太い縄のついた、滑り車で吊りあげられましたが、

や あ 婆さん 綺麗な衣装 を着 た なあ。

Piano accompaniment (Pno.) in 5/4 time, featuring a melodic line in the right hand and a bass line in the left hand.

[語り]

と遠くに見てゐた、爺さん牛が、思はず感嘆をしたほどに、
婆さん牛の姿は変つてゐました。

そ れ はうつ くない 真 赤な 着ものを着て るました。 その

Piano accompaniment (Pno.) in 7/8 time, featuring a melodic line in the right hand and a bass line in the left hand.

あ か い 衣装 は、 ぼたぼたと おとして、 地面 にしたたり、
(音)

Piano accompaniment (Pno.) in 7/8 time, featuring a melodic line in the right hand and a bass line in the left hand.

地面 に吸はれました。 屠さつ場 の おとこが、 しろ い刃もの をひからし

Piano accompaniment (Pno.) in 7/8 time, featuring a melodic line in the right hand and a bass line in the left hand.

て、 婆さん牛の そのあかい衣装を はぎだしましたが、

Pno.

ちやうど官女の 十 二ひとえのやうに、 何枚も何枚も、

Pno.

あかい着ものを かさねてゐました。 婆さんは、

Pno.

[語り]

いつの間に、赤い下着をあんなに多くさん着こんでゐたんだらう。
爺さん牛は、これを見て急にお可笑くなつたので、腹を抱へて笑ひだしました。

ポポウ ポウ ポウポウ タポウポウ ポポイ ポポイ ポイポイ モオオ—

Pno.

[語り]

次は爺さん牛の、ひつくり返る番がまゐりましたが、爺さん牛は、
 なにか知ら体中が急に寒気がしてきて、
 ひつくり返ることがたいへん嫌なことに思ひましたから、どんどんと逃げだしました。

や あうしが 逃げだした。 銅 ぬしが、 大

Pno.

婆 おどろいて、 さけびながらあと を追ひ かけて きました が、

Pno.

爺 さん 牛 は はら を たてて、 お前 さんは、 わし の

Pno.

glissando

婆 さん 牛 の 手 — あしを、 材 木 を かた づけ る やう に

Pno.


glissando *glissando*

して、 何 処 へ か く し て し ま っ た か い。 と 爺 さん 牛 は、

Pno.



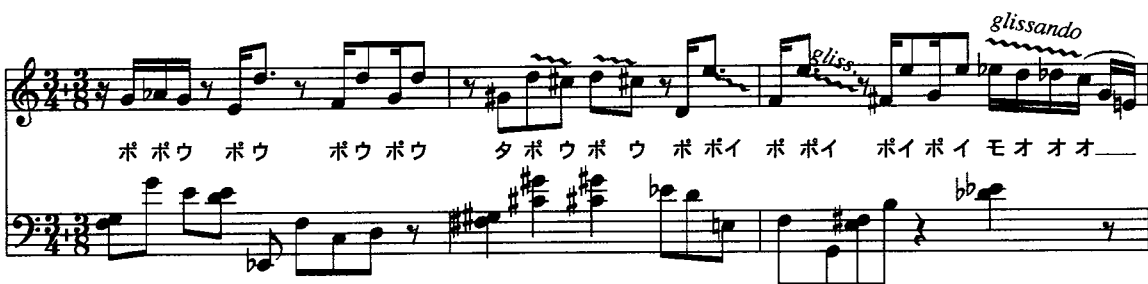
 飼ぬしの背なかを、ひとつ蹴とばしました。すると飼主



 は、ぎゃあと

[語り]
 蛙の鳴くやうな声をだして、
 其の場にひつくり返つてしまいました。

[語り]
 飼主はいつまでたつても、起きあがらうとせず、ぴくりとも身動きをしないので、
 爺さん牛は、これを見て、急にお可笑くなつたので、腹を抱へて笑ひ出しました。



 ポポウ ポウ ポウポウ タポウポウ ポポイ ポポイ ポイポイモオオオ—

[ここで間奏]




 なあ婆さんや、お前はわしのみぎあしの不自由なこ

とを、ひやくも承知のくせに、わしの身のまわりの世話もしてくれ

Pno.

ずに、どこを飛びまわってゐたのかい、このうわきはばあめが。なあ、
(浮気婆奴)

Pno.

何処まで、お前は出掛けたのさ、あかい綺麗なうわぎもどこかにわすれてきて。

Pno.

おまへは急に小さくなったなあ、こんな吹きざらしの

Pno.

かはらで、ひとりなにをかながえてゐたのさ、なあ婆さんや。

Pno.

爺さん牛は、 かういひながら、 くり返しくり返し、河原の 石ころの上に、 頭ばかりとなって捨

Pno.

てられてあった、 婆さん牛に むかって 色々のことを 質問をしましたが、

Pno.

【語り】

婆さん牛は、だまりきつてゐて返事をしませんので、爺さん牛は、さびしく思ひました。
 爺さん牛は、お婆さん牛が、よほど遠方に旅行してきて、言葉も忘れてしまひ、
 手足もすりへつて、無くなつてしまつた程に、歩き廻つてきたのだと思ひました。
 そして、その婆さんの、白いひとかたまりの石のやうになつた頭を、蹴つて見ますと

【語り】

とそれは澄みきつた音が、秋の空にひびきましたので、
 二三次続けさまに蹴つて見ますと、
 今度は急に吃驚する程、醜い不快な音をたてて、
 婆さん牛の頭は、粉々に碎けてしまひましたので、
 爺さん牛はお可笑くなつて笑ひだしました。

カアーン。カアーン。

Pno.

ポポウ ポウ ポウポウ タポウポウ ポイ ポイ ポイモオオオ—

Pno.

[語り]

速くから、たくさんの人々が口々に、人殺し牛をみつけた。捕まへろ。と叫んで爺さん牛の方に、走ってきました、中には鉄砲をもった人も居りました。

牛はさんざん暴れ廻つて、逃げようとしたましたが、とうとう捕まつて、この爺さん牛も、婆さん牛と同じやうに、黒い屠殺場の建物の中で、額をかまかせに金槌で殴りつけられて、ひつくり返されてしまいました。

Pno. 

Pno. 

Pno. 

トン テレ トン テ ケ トン テ レ レ レ テ レン レン レン レ レ レ

Pno. 

ツン ツン ツク ツク ツク テン レン レン レ レ レ レ テン

glissando *gliss.*

トン トロトロ トロトロ トロ □□□□ ポウポウ イヤ

Pno.

glissando

ポウ イヤ ポウ ポポウ イー———— テ トン

Pno.

婆さんや、 おや、婆さんや、 お前は こんなところに 居たのかい、

Pno.

わしはどれほど お前 をうらんで めたかしのよ、 まあ、まあ、爺さん、 わし

Pno.

も どれほど 逢ひ た かつ た か し れ な い よ。

Pno.

[語り]

爺さん牛と、婆さん牛は、思ひがけない、めぐりあひに、
抱き合つて嬉し泣きに泣きました。
赤いお祭り提灯が、ぶらぶら風にゆれ、紅白のだんだら幕の張り廻された杉の森の中では、
いま村祭りの賑はひの最中でした。
爺さん牛、婆さん牛は、その祭りの社殿に、
それは大きな大きな太鼓となつて、張られてゐたのです。
村の若衆が、いりかはり、たちかはりこの太鼓を、それは上手に敲きました。

婆 さん、 わし たち は こ ん な 幸 福 に 逢 つ た こ と は な い な あ。

Pno.

gliss.

わし は、あ の ま る い 棒 が か ら だ に 触 れ る と 急 に 陽 気 に な っ て、 う た

Pno.

ひ だ し た く な る。 お 前 と は、 い つ も か う し て は な れ る こ と が な い し。 あ た り

Pno.

gliss.

gliss.

は にぎやか だしな あ。 わたちの わかい時代 が、いっぺんにも

Pno.

gliss.

どって来たようだ。 さ あばあさん、 いっしょに うたった、 うたった。

Pno.

glissando

ポウポウ イヤ ポウ イヤ ポウ ポポウ イヨー—— テトン

Pno.

【語り】

夫婦牛の太鼓は、七日の村祭に、それは幸福に鳴りつづきました。

お祭りの最後の七日目の事でした。

ひと雨降つて晴れたと思ふまに、凄まじい大きな、ちやうど獣の咆えるやうな、風鳴りがしました。すると森の木の葉がいつべんに散つてしまつたのです。

Pno.

やあ、風船玉があがる。やあ、大風だ、大風だ。

子供達が手をうつて空を仰ぎました。

風船屋が、慌てて風船を捕まへようとしたましたが、糸の切れた赤い数十のゴム風船は、ぐんぐん空高く舞ひ上りました。

陽気に鳴り響いてゐた、夫婦牛の太鼓が急に、大きな音をたてて、破れてしまひました。

爺さん。わしは急にこえが出なくなつた。うむ、わしもいき

Piano accompaniment for the first system, showing a bass line with notes in the left hand and rests in the right hand.

がくるしくなつてきた、ものも書へなくなつてきたよ。爺

Piano accompaniment for the second system, showing a bass line with notes in the left hand and rests in the right hand.

[語り] ひつくり返るときが、きつとやつて来たのだよ。
さん、またわたちの

Piano accompaniment for the third system, showing a bass line with notes in the left hand and rests in the right hand.

ああ、さうにちがひない、体が寒むくなつてきたな、婆さん。
では、またわし達は、別れなければならないのかい。
さうだよ、ひつくり返るのだよ、婆さんまた何処かで、逢へるだらうから、
さうめそめそ泣きだすもんぢやないよ。

一陣の寒い、冷たい風が、太鼓の破れを吹きすぎました。

Piano accompaniment for the final system, showing a bass line with notes in the left hand and rests in the right hand.